

2023年2月12日（日）「御霊による新生」

ハイデルベルク信仰問答より

問8 では、私たちは非常に堕落しているので、善を行なうには全く無力であり、悪を行なう傾向があるのですか。

答え そうです。もし、私たちが神の御霊によって新しく生まれるのでなければ、その通りであります。

〔聖書協会共同訳〕

主は、地上に人の悪がはびこり、その心に計ることが常に悪に傾くを見て、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。（創世 6:5-6）

汚れたものから清いものを出せるでしょうか。誰一人できはしません。（ヨブ 14:4）

私たちは皆、羊の群れのようにさまよい、それぞれ自らの道に向かって行った。その私たちすべての過ちを、主は彼に負わせられた。（イザヤ 53:6）

ですから、以前のような生き方をしていた古い人、すなわち、情欲に惑わされ堕落している人を脱ぎ捨て、心の霊において新たにされ、真理に基づく義と清さの内に、神にかたどって造られた新しい人を着なさい。（エフェソ 4:22-24）

今日は人間という生き物について、二つの側面から考察してみたいと思います。

まず肯定的な側面として、常に成長し続けようとする、終わりなき向上心と探究心を持った生き物だと言うことができるでしょう。人類史において、あらゆる分野で技術の革新がなされてきており、積み上げられてきた遺産の上で更なる発見をしていく。スポーツを例に申しますと、私が現役で卓球をやっていた20年前と今とでは、そのテクニックに大きな開きがあります。ルールそのものも変わりましたが、見たこともないサーブのスタイル、当時なかったレシーブ技術、攻守一体型のラリー、卓球を始めて僅か1年で全国トップレベルまで上り詰める小学生と、私の理解を超えることばかりです。バレーボールの試合などを見ても、試合中にタブレットで相手陣営の動きをデータで分析する時代であり、練習の段階ではより無駄のない筋肉の付け方、スムーズなフォームの作り方、対戦相手の弱点の解析がなされていて、単なる運動や根性ではなく、精密な科学として磨きかけられ続けています。スポーツだけではなく、例えば通信の分野においても、2Gがいつしか5Gまで進んでおり、10年ごとに新しい世代に置き換えられ、速度はぐんぐん増していきます。それによって、遠隔からでもロボットを用いて外科治療が可能にさえなると言われています。通貨にしても、コインと紙幣の時代は終焉を迎えており、デジタル通貨への切替えに向けて世界はほぼ準備万端の状態です。

このように、人類は常によりスピード感のある生活を求めて、テクノロジーの進歩に邁進しています。人間には物事を改良するための知恵が与えられており、その意味において地球上では特別な存在と言えるのかもしれませんが、このような向上心のもたらす結果が必ずしも良いものばかりではないことに、おそらく多くの人気が気づき始めているでしょう。5G 電波は通信革命とも呼ばれるように、先の3Gや4Gの20倍から200倍の超速度になり、2時間以上の映画のダウンロードが数秒でできてしまうレベルだと言われます。しかし、便利なものにはリスクが伴い、IoT技術により家電とインターネットが結びつけられることによって、監視、サイバー攻撃、ハッキングの危険性がきわめて身近になるだけでなく、電波そのものが人体にどのような影響を及ぼしているか分かりません。次世代の6Gになると、電波によって人の感情までも操作できるようになると言われており、それによる精神異常が生じることも懸念されています。隣国では、2019年時点で2億台もの監視カメラが国中に設置され、顔認証システムとAIの連結によって、誰がどこで何をしているかが瞬時に把握されるようになりました。米国で開発中の「スマートシティ」は、人がその空間に入ると、既にスマートフォン等の端末で収集されたデータによって、その人の趣向に合ったものが瞬時に提供されるようです。無国籍企業が私たちのあらゆるデータを保存しているのは、怖いことでもあります。テクノロジーの進歩が人間の自由を奪う時代がすぐそこまで来ているとも言える。日本の内閣府でも「ムーンショット計画」というものが掲げられており、人間の思考をメタバース空間へ送り、肉体と分離できるようにすることが目標とされています。そのために、おそらく脳内チップのようなものが今後用いられていくのでしょうか。ここまで来ると、もはや人間は人間でなくなってしまうかもしれません。更に、最近では遺伝子組換え技術により蚊の生態系を変えることに成功し、今後地球上の蚊を一掃する計画が始まっているそうです。これは一見ありがたいことのようにありながら、蚊がこの地球上で果たしている一定の役割を壊してしまうかもしれない。ポウフラは川底をきれいにしているといいますし、蚊を食糧としている生物もいるはずですから、蚊が絶滅すると連鎖的に淘汰される生物が次々と出てくるのではないかと懸念されています。

このように、人間には驚くべき知恵が与えられている反面、分を超えた領域にまで手を伸ばし自らを「神」に仕立て上げる危険性を持っているのです¹。人類は絶えず「神になろうとす

¹ 国連事務次官メリッサ・フレミング（グローバル・コミュニケーション担当）は、世界経済フォーラムの講演で「We own science!」と発言しました。つまり、「私たちは科学を所有しており、世界はそれを知るべきだと考えている」「科学を所有しているのは自分たちであり、神の領域に手をつけても倫理違反はなく、何でもありである」と。

また、イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリ博士は次のように発言しています。「人間が自由な意思を持つという考えは終わった。人間はハッキング可能な動物であり、もはや、神ではなく、私たちのインテリジェントデザインによる対象なのだ。私たちは人間を大規模にハッキングする技術をもっている。」「オーバー・ザ・スキン・サーベイランス（Over-the-skin-surveillance）とは、外の世界で何をしているのか、どこに行くのか、誰に会うのか、テレビで何を見ているのか、どのウェブサイトをオンラインで訪問しているのかを監視することだ。それはあなたの体に入らない。皮膚の下での監視は、あなたの体の中で何が起きているかを監視する。それは体温のようなものから始まるが、その後、あなたの血圧、あなたの心拍数、あなたの脳活動に行くことができる。そうすれば、これまで以上に人類についてはるかに多くのことを知ることができる。」

る」道を探求してきたとも言えます。神のかたちに創造された人間ですが、「人間はすばらしい無限の可能性に満ちている！」と声高に叫んでいるときに見えなくなってしまう落とし穴がある。ハイデルベルク信仰問答問8は、人間の「全的墮落」について教えています。

問8

では、私たちは非常に墮落しているので、善を行なうには全く無力であり、悪を行なう傾向があるのですか。

ここでは、人間全般が抱えている問題が三つのフレーズで表されています。

- ① 非常に墮落している
- ② 善を行なうには全く無力である
- ③ 悪を行なう傾向がある

まず「非常に墮落している」という表現が出てきますが、本問答書が立っている立場では、墮落の教理は「全的墮落 (whole depravity)」が強調されます。「whole」をどう訳すかによって、そのイメージが変わってくるかもしれません。「全体として」では弱いのであって、「全部」「まるごと」と訳すことにより、人格の隅々まで墮落していることを伝えようとしている意図を汲み取る必要があるでしょう。

「私たちが生きているあらゆる領域において罪を犯し得る存在であり、罪の影響を免れた部分をいかなる領域も持っていない。」(朝岡)

「認識から意志へ、魂から肉までも、人間の中にあるものはなんでも、この強欲さで汚され、貪り食われたのである。あるいは、もっと手短かに言うなら、すべての人間は強欲さだけが自分自身のものである。」(ペリー)

「神が人間に賦与された立派な特性の大部分を人間は守った。だが、神の栄光のために用いるか、自分自らの幸福のために用いるか、人間はもはやその用い方を知らない。人間は墮落の結果にひどく苦しんでいるが、根本的に墮落しているのを見出すのは、これらの能力の用い方によって、能力それ自身にあるのではない。」(ペリー)

「存在の根からどうかなってしまったとしか言いようがないほど、人間というのは罪を犯す。」
(加藤)

与えられた知恵を用いて進歩を続けながら、常に強欲と結び付いていく現実がある。誰かの利権のために、世紀の発見が闇に葬られることもあります。カネをチラつかされると、魂までも売り渡してしまう弱さがあるかもしれない。事実が地中深く埋められ、その原型を見つけ出す

のが困難な世界です。しかし、このように言いながら、もし私たちが自分の心の中を見つめないのであれば、「自分の目の中にある梁を見ず、相手の目の塵を取らせてくれるように求める人」になっているでしょう。私たち人間の内には、常に「誰かのせいにしたい」という自己保身的性質が隠れているのです。人類は墮落したことにより、自分で責任を取ることが困難な生き物になってしまいました。アダムとエバが墮落してすぐに始めたことは責任転嫁でした。

人は答えた。「あなたが私と共にいるようにと与えてくださった妻、その妻が木から取ってくれたので私は食べたのです。」(創世3:12)

アダムは自分の過ちを神とエバのせいにした。

神である主は女に言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたのです。それで私は食べたのです。」(創世3:13)

エバもまた自分の過ちを認めず、蛇のせいにしている。

「善を行なうには全く無力である」という表現は厳しいですが、これは一見良い行ないに映るところにも、どうしても不純な動機が入り込んでしまうことを伝えているでしょう。何一つ真に純粋な行為がないとまで言われている。「悪を行なう傾向がある」とも言われていますが、この「傾向」ということばは「傾いた板」のようなもので、そこに乗ると誰でもその傾斜に従って、抵抗できずにずるずると落ちて行ってしまう。私たちは生まれつき「傾いた人格」の上で生きているので、すべてが曲がっており、的外れの人生を歩んでいる。本問答書はここまで読者自身の問題を突き詰め、逃げ場を塞いでしまいます。一人ひとり、自分がその人生のどこかで責任転嫁をしたことが胸に問われるのではないのでしょうか。私とて例外ではありません。幼少の頃から、自分の罪を認めず、むしろ隠す傾向があったことを思い出します。

しかしながら、ここまで自分という存在を見つめたところで、本問答は一つの「救いの道」を開示してくれます。

答え

そうです。もし、私たちが神の御霊によって新しく生まれるのであれば、その通りであります。

まず、「私たちが」と言うところに、著者自身も例外ではないという自覚が込められているように思います。すべての罪人と共に、ただ一つの救いの道に立とうとしているのです。それは、「神の御霊によって新しく生まれる」ということ。古い自分に死に、キリストにあって新しく生まれるということです。私はこの説教のために、注解書の中で紹介されていた参考聖句の多くを引用しましたが、一つだけ自分の心に示されてきた箇所を加えました。

ですから、以前のような生き方をしていた古い人、すなわち、情欲に惑わされ墮落している人を脱ぎ捨て、心の霊において新たにされ、真理に基づく義と清さの内に、神にかたどって造られた新しい人を着なさい。(エフェソ 4:22-24)

ここでは「古い人」とは「情欲に惑わされ堕落している人」と言い換えられています。これは生まれつきの私たちの姿であり、「情欲」とは歪んだ性的願望だけでなく、強欲とか偶像礼拝とも捉えることができるでしょう。私たちは生まれつきそれによって「惑わされ」「堕落している」というのです。しかし、それを「脱ぎ捨て」ることができる。こんな汚い服を着たまま生き続けるのはもう嫌だ！と心底から思い、真新しい服に着替えるのです。「真理に基づく義と清さの内に、神にかたどって造られた新しい人」とはキリストご自身を指すのであって、この方を心に迎え入れることにより、私たちの人格に新しい人格（キリストの人格）が接木され、本来の人間性が取り戻されていく。つまり、私たちの中からウソや偽りが一つひとつ消えていくのです。責任を誰かになすりつけるような、愚かで惨めな生き方に別れを告げる。ウソがなくなると人は楽になるのです。もし人が倫理的な意味で光り輝くとしたら、その人の内に裏表が見出されない時でしょう。主イエスは「然りは然り、否は否」とだけ答えよと教えられた（マタイ 5:37）。ご自身、ウソもごまかしも一切なかったのです。この方の人格が私たちの内で生きようになると、私たちもそのようになっていく。そして、真に輝く「新しい人」となることができるのです。

創世記の著者は、人は当初から「その心に計ることが常に悪に傾く」ことを知っていました。義人と呼ばれたヨブもまた、自分を含めてすべての人間には汚れがあることを自覚していました。預言者イザヤも「私たちは皆、羊の群れのようにさまよい、それぞれ自らの道に向かって行った」と告白しています。人は皆病んでおり、道に迷ってウロウロ彷徨っているのです。しかし、そのような私たちの肩を叩き、声をかけてくださった方がいます。「新しい衣」を手にした主イエスが、「これを着ないか」と問うておられる。偽りに満ちた人生を歩むのをやめることができるのだと。まったく新しい第一歩を踏み出すことができると言ってくださっている。そう、私たちはその道を選び取ったはずなのです。この道を最後まで歩み抜きたい。主イエスから片時も離れずに歩んでいきたいと思えます。

【祈り】

私たちをご自身の聖なる目的の下にお造りくださった天の父なる神様。しかし、私たちはその目的に生きられない状態でこの人生を歩み始めました。生まれつき備わった性質によって、主に喜ばれないことを行なってしまうのです。その根源がアダムの罪にあることを、聖書を通して知るに至りました。また、主イエスが第二のアダムとして来られ、新しい人格を接木してくださるという真理にふれました。この人格が私たちの内で生き続け、永久に主のものであることができますように。聖霊によってこのことを一人びとりに実現させてください。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、

人をご自身の聖なる目的の下に創造し、地の正しき管理者として立て給うた、父なる神の愛、
アダムより墮落の道を辿り続ける人類に、罪の赦しの道を拓き給うた、主イエス・キリストの恵
み、

キリストの人格として人の心に宿り、義の衣で常に覆い給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。